

2014

人権週間ギャラリー展

せいしんこうりん

誠信交隣を願って

日朝・日韓関係の歴史と現在



2014 2015
12.10[水]—**2.2**[月]

会期中無休 観覧時間：午前9時～午後4時 ※**入場無料**

真宗本廟(東本願寺)

参拝接待所ギャラリー(1階・地下1階)

監修：仲尾 宏氏(京都造形芸術大学客員教授)

水野 直樹氏(京都大学人文科学研究所教授)

文 公輝氏(多民族共生人権教育センター事務局次長)

公開シンポジウム開催

2015年1月22日(木) 午後2時～午後4時30分

会場：真宗大谷派(東本願寺)宗務所3階議場

内容：監修者によるパネルディスカッション

主催：真宗大谷派(東本願寺)解放運動推進本部

お問い合わせ：075-371-9247



洛中洛外図屏風【今井町本】「部分」(個人蔵)

真宗大谷派
東本願寺
SHINSHU OTANI-ji
Toshimura-ku, Kyoto

人権週間ギャラリー展

せいしんこうりん
誠信交隣を願って
日朝・日韓関係の歴史と現在

開催にあたって

真宗大谷派では、毎年人権週間にちなみギャラリー展を企画しております。本年は「誠信交隣を願って一日朝・日韓関係の歴史と現在」をテーマに開催いたします。

古来から朝鮮半島と日本列島は「一衣帯水」の隣国であり、50キロたらずの海峡をはさんで人や物の活発な交流がありました。その交流を担ってきた渡来人の子孫たちは、先進文化をもたらすと同時に寺院の建立、仏典の普及にも大きな力を発揮しました。聖徳太子の教育には高句麗と百済からの渡来僧があたり、学んだ仏の教えを『三経義疏』にまとめたといわれています。長い交流の間には苦難の時もありました。交流を断ち切ったのが豊臣秀吉による文禄・慶長役（韓国・朝鮮では壬辰倭乱）です。京都東山に残る「耳塚（鼻塚）」はその悲惨さを現在に伝えています。当時、少なからぬ僧侶も「従軍僧」として動員され、浄土真宗においても釜山に寺を開き、布教にあたりました。

その後、江戸時代には「朝鮮通信使」が12回も来訪され、対等な立場で「誠信（互いに欺かず、争わず、誠実と信頼を基本とした交流）」をかわす平和な関係が200年あまり続きました。東本願寺の浅草別院、難波別院にも通信使一行が宿泊し、交流の歴史が残されています。

近代以降、日本政府の対外拡張政策のもとで朝鮮半島を植民地にするという悲惨な歴史がありました。その罪責は重く深く、現在も日本社会に大きな爪痕を残しております。当時、大谷派も「海外開教」の名のもとに布教所、別院を設置し教線拡大を推進しました。

このように、交流の恩恵の遺産は日本社会のいたるところにあると同時に、苦しみ、悲しみが刻まれている事柄・場所が各地に残されています。またヘイトスピーチに見られるように、在日コリアンに対する差別が厳しさを増す現在、朝鮮通信使に学ぶことは今日的な意味を持っていると考えます。私たちは歴史に学び、その教訓からこれからの未来を切り拓いていくことが必要です。

同朋会運動が進められて50年が過ぎましたが、私たちはこの間、人間解放を願う方々をはじめ、差別を受けてきた多くの人たちから「同朋」という内実を厳しく問われてきました。さらには靖国問題により、教団の歴史が照らされ、国家に呪縛された信仰からの解放が求められてきました。近年50年の歴史は、同朋教団の名にかけて、差別問題、靖国問題からの問いかけと願いに応答しようしてきた歴史でありました。今回のギャラリー展を通して、ともどもに人間解放の道を歩みだすひとりの人間の誕生が願われています。

2014年12月

真宗大谷派宗務総長 里雄 康意

真宗大谷派
東本願寺
shinshu Otani-ha
Higashihonganji

www.higashihonganji.or.jp